

隨泉寺寺報

平成19年(2007年) 6月号 第442号

TEL 082-892-0217 http://www.zuisenji.com/

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

前期門信徒講座

講師 善正寺住職 那須英信師

講題 「お浄土の風」

『青葉さへ みれば心のとまるかな

散りにし花の なごりと思へば』 西行(さいぎょう)

【通釈】「青葉さえ 目に入ると心が止まるものだなあ

あのきれいだった桜の花の 名残と思えば」

新緑の美しいときです。秋の紅葉もきれいですが、やはり今が空気がみずみずしい感じがします。これから成長していくという息吹が感じられ、元気が出てくるような気がします。桜の花の見事さも、散るときのいそぎ良さも、これから青々と茂っていく成長があって美しいのでしょう。

いろいろな思いがあります。楽しかったこと、嬉しかったこと、ときめいたこと、忘れようとしても忘れられないこと、大切な人を失って悲しみを沈んでしまうことなど、人生にはさまざまなことがあります。しかし前に向いて生きていきましょう。花の後にはきれいな青葉のときも来るのですから。

”花に染む 心のいかで残りけん 捨てはててきと 思ふわが身に” 西行
(出家したばかりなのに、どうしてこんなにも桜の花に魅了されるのだろう。)

6月の法座予定

6月10日.....掃除 出口・宮原

6月14日 昼席午後1時より.....前期門信徒講座

6月14日 夜席午後7時より.....出張法座 出口・宮原集会所

6月15日 朝席午前10時より.....お父さんの集い おとき

6月15日 昼席午後1時より.....前期門信徒講座

6月23日 昼席午後1時より.....伝道院研修特別法座

7月 2日 午後6時より.....門信徒会本部役員会



☆おとうさんの集い 6月15日(金) 午前10時～

6月の第3日曜日は父の日です。そこで門信徒講座の二日目の朝席をお父さんにお寺に参ってもらう日にしました。誘い合わせて、たくさんお寺の門をくぐってください。【お父さん】とは男の人という意味です。男の人の集いでは女の人が参りにくいので<お父さんの集い>にしました。女の人もどうぞ誘い合わせてご参加下さい。



☆伝道院研修特別法座 6月23日(土) 午後1時～

本願寺に伝道院という研修所があります。住職としての必要な勉強をするところです。住職として必要なことはいろいろありますが、特にふたつ挙げれば、ひとつは葬式とか、法事とかのお勤めをすることです。いまひとつは、仏様のみ教えを伝えていくことです。伝道院では特にこのみ教えを伝える『布教』ということを中心に勉強します。



毎年どこかの実際のお寺で研修をします。今年はこの安芸教区が担当で実習を引き受けることになりました。

実は次女がその伝道院で勉強させていただいています。それで特別法座を受けることにしました。次女はおそらく違うお寺にいておもしろいと思いますが、どうか若い布教使を育てると思ってお参り下さい。私も35年前この伝道院で勉強させていただきました。そのときに実習

で行ったお寺を今でもよく覚えています。何をどう話したか覚えていませんがとにかく恥ずかしくて、あがって無茶苦茶だった事でしょう。

☆初参式 5月14日 降誕会法座の昼席の前、合同

初参式を開催いたしました。

今年には長者原西の福永高・敬子さんの長女 **福永眞**

子さんと上平原1の中本薫・利香さんの長女 **中本**

穂香さん、桑原の藤本英治さんの長男 **藤本 麟さん**

の3名の方の初参式を行いました。初参式は初めてお

寺にお参りをして、仏様の願いの中に人生が始まること

を形に表し、さらに周りのものが『仏の子』として

育てる思いを確かめるものです。そろって仏様の前に

座り、やさしい子に育ててほしい、さち多き人生を歩んでほしいと願うのです。



☆御礼

永代経懇志 金 拾萬円 二川 明殿 故 二川 久様 特別永代経志として

永代経懇志 金 貳拾萬円 合原 節子殿 故 合原 弘輝様 特別永代経志として

☆御礼

門信徒会へ 金 一封 二川 明殿 故 二川 久様 香典返しとして

門信徒会へ 金 一封 合原 節子殿 故 合原 弘輝様 香典返しとして

仏さまの大きなおいのちに 目覚めさせていただく

三河のあたりは、昔から仏さまの教えを大切にされてきた地方で、そのためか、中学生など、ほんとうに立派な生徒が育てられてきており、尊く思ってきました。ところが、その三河で、過日、女子中学生が二人一緒に飛びおり自殺をするという事件がおきてしまいました。きっと、死なねばならない程のつらいことがあったからにはちがいないのですが、もしもこの生徒たちが、ほんとうに仏さまのお心をいただいた先生方や家族の方々の毎日の生き方にふれて育ってきてくれたら、決して、死を選ぶようなことはしなかったろうと思います。

仏さまの教えは、決して甘っちょろいものではありません。大無量寿経に「身自らこれにあたる。代る者あることなし」とありますように、悲しみもつらさも、自分の荷物は自分の荷物とあきらかに見きわめ、覚悟を決めて背負わせていただき、そのことを通じて、仏さまの大きなおいのちに目覚めさせていただく教えです。このことを、仏教詩人である相田みつをという方は、

いのちの根

なみだをこらえて
かなしみにたえるとき
ぐちをいわずに
くるしみに たえるとき
いいわけをしないで だまって
批判にたえるとき
いかりをおさえて
屈辱にたえるとき
あなたの眼のいろがふかくなり
批判にたえるとき
いかりをおさえて
屈辱にたえるとき
あなたの眼のいろがふかくなり
いのちの根がふかくなる。
とうたっていっちゃいます。



仏さまの大きなおいのちに
目覚めさせていただく

母を見送って

母は大正十年に六人兄弟の長女として生まれました。両親が商売をしており とても忙しかったそうで 学校に行く前に家の廻りを掃除するのが日課だったそうです。



習い事はさせてもらっても免状をとると嫁に行かなくなるからと資格はとらせてもらえなかったそうです。

戦時中の苦労話もよく聞きました。

父は徴兵され、そのその間に生まれた長男を病気で亡くした事、新築の家を空襲で焼かれた事、戦後の食料難での事、戦後生まれの私達の子供時代は家で洋裁店の縫い物をしていました。子供には淋しい思いをさせたくなかった様です。よその家から比べると門限がずいぶん早いし ちょっとのんびりしたり横になったりすると、厳しく叱られたりで今でも振り返るとよそ様と比べると、つくづく躰の厳しい親だと思います。

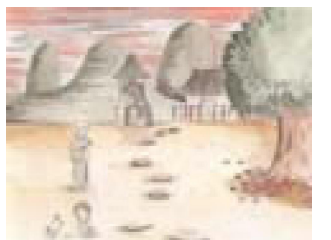
多分二人姉妹を育てるのに一生懸命だったんだと今になって感じます。七十才を過ぎててもすぐく前向きで手先が器用なので人形の講師の資格を取ったり書道の通信教育を受けたり とてもおしゃれで日本旅行、海外旅行に行ったりと 年令を感じさせない母でした。そんな元気な母が運悪く二年半前に肺腺症という重い病気にかかりましたが、病気は私の運命、今が一番幸せと言ひ、気分の良い時には木目込み人形やビーズなどの製作をしていました。仏壇の前でお経を唱える信仰心の厚い母が目目に浮かぶようです。私達も母の様に 日一日を精一杯生きなければとつくづく思っています。

平成十九年四月 恒松 明江

法名釋専心 恒松キヨコ 平成19年2月19日往生 行年87歳
悲しい気持ちでいっぱいです。

私のふるさととは神石高原町です。こんにやくと牛が有名で、自然がいっぱいで素敵なところです。2年前までは神石郡油木町とっていました。それが神石町、三和町、油木町、豊松村が一緒になり、神石高原町となりました。

新しい名前になり、過疎の町が新しい発展をしてくれたらと願っていましたが、違う残念なことで有名になってしまいました。それはこのごろ放火が続いているらしいのです。2月ごろから始まり、最初は山などでボヤだったらしいのですが、このごろは倉庫とかお宮でそれも毎日起きているらしく、どうも地元の人ではないかと思われ、みんな疑心暗鬼で、夜も眠れないようで人々は疲れ果てているようです。



悲しい気持ちでいっぱいです。私の大好きなふるさとが大変なことになっています。早く解決して人々に笑顔が早く帰ってほしいものです。